

パームサンデーを迎えました。イースターまでの最後の一週間です。体内の毒素を排出するデトックス健康法のように、私たちも十字架の前に立ち、己の罪を悔い改めて、復活の喜びを体験しましょう。

### 拒絶された救い主

日本は 80 年戦争がありません。ですから、人を殺す、殺される、という場面は、映画や小説でしか見ることはありません。本当に幸せなことですが、だからと言って、自分たちが、良い人間になった、同じ過ちを繰り返さないと錯覚してはいけません。

「その男を殺せ」とは、「その人を除け」とも訳されます。急に身近な言葉に感じます。拒絶は、私たちにとって身近な問題です。あの人ではダメだ。その人は入れるな。この人を代わりにしよう。これらは、クリスチャンであるなしにかかわらず、子どもでも、お年寄りでも、人間関係の中で繰り返される会話です。

救い主は拒絶されたのです。席数を満たして、入れたくない人を断るための、数合わせのようにバラバは利用されただけでした。心が決まってしまうと、もう理屈など要らない。そんな人間の罪深さが、ここに浮き彫りにされています。これが、古今東西変わらない人間の世界です。イエス様は、はじき出されました。目には見えない殺人事件は、毎日、私たちのまわりで起きていると思います。その血のりも拭き取られないまま、匂いが残っています。目を背けて通るだけでは、本当の解決にはならないからです。

### 釈放されたバラバ

聖書は、どうしてこんなことを私たちに突きつけるのでしょうか。やるせない気持ち、割り切れない思いに、ただずむことが、どうして必要なのでしょうか。それは、私たちが碎かれるためです。そして聖霊が働いて、思いがけない道が新しく開かれることを体験するためです。

ミッション・バラバという伝道団体があります。元・暴力団員の「刺青クリスチャン」が「親分はイエス様」のスローガンを掲げています。この方達は、まさしくバラバのように、イエス様によって人生を救われました。そして世界中の間違った道を歩む人々に、希望と愛を証しされています。その存在そのものが新生の恵みを体現しています。

救い主が拒絶されることなど、あってはならないことです。しかし、それが事実起こってしまいました。実はそれは、新しいことが始まるためだったのです。ルカによる福音書は、24 章では終わりません。実は同じだけの分量で、使徒言行録という、第二章があります。これは私たちの人生にとっても言えることです。十字架につける！というシュプレヒコールは、醜い場面ですが、最終場面ではありません。死に打ち勝つ復活と、エルサレムで新しい聖霊の風が吹き始める場面に、福音は続いてゆくのです！